

五月度文豪大賞・入賞



大賞



入賞

「ナイチンゲール」を読んで
六年

私は、ナイチンゲールを読んで、ナイチンゲールの心の優しさ、そして心の強さを知りました。

私がナイチンゲールを読もうと思った理由は、女の人が仕事をもつて生きる道を切り開いた人は、どんな人なのか。ということに興味があったからです。私は、ナイチンゲールは、看護婦なので、優しい心をもった女性で、強い心は、持つていないだろうと思つていました。でも、よく読むと優しい心だけでなく強い心も持ち、たくさんの人の苦しみをやわらげて、くれていたという事が分かりました。そして、私がこの本を読み、びつくりしたことが二つあります。まず、一つ目は、病院というところは、家族がいない人や、貧しい人が、しかたなく入る所だったという事です。私は、病院というと「清潔な場所」で病気をしつかり治してくれる」というイメージがある

ので、びつくりしました。そして、二つ目は当時看護婦はだらしのない人と思われていた。という事です。今、私達の看護婦さんのイメージは、やさしく、先生の手助けをしつかりとしている。というイメージなので、この二つには、とてもびつくりしました。

私は、ナイチンゲールの「私は、神様に命じられたこと」をただけです。」という言葉は、少しちがうと、思いました。たしかに、ナイチンゲールは、「神の声」を聞いたことが原因で看護婦になったのかもしれない。しかし、ナイチンゲールが人々から、そんな敬されていたのは、ナイチンゲール自身が努力し、がんばったからだと思いました。

だから私は、ナイチンゲールのように、「自分にしかできない、大切なこと」を見つけ、だれかの役に立てる、そんな仕事したい。と思いました。

- ◆ 自分にしかできない大切なことを見つけ努力する姿に感動します。
- ◆ ナイチンゲールがどんな人でどんなところに魅力を感じたかがうまくまとめられている。
- ◆ 病院や看護師の昔と今に注目しているところがよいです。またナイチンゲールの言葉を分析し、自分の意見を書いているところがすばらしい。

「ヘレン・ケラー」を読んで
六年

私がこの本を読んだ理由は、三重苦をのりこえ、目や耳の不自由な人たちのためにつくしたヘレン・ケラーは、どんな人生をおくつたのか知りたかつたからです。

この本を読んでいくと、私は、ヘレンに五十年間寄りそつて生きたサリバン先生の伝記は、なぜないのだろうか？と思いました。サリバン先生の伝記があれば、ぜひ、一度読んでみたいのです。

ヘレンの人生の中で、私が最もおどろいたことは、ヘレンがハーバード大学に受かったことです。ふつうの人でもなかなか入れないのに、目も耳も不自由なヘレンが受かったとは、他の人以上に努力し、そして、図形などの問題や先生などのお話を、いちいち手で教えたサリバン先生もすごいなあと思えました。

ヘレンは日本に、三度訪問しています。その時、ひ書のトムソンと着物を着た時の写真

がのつていました。きれいだな、とは思つたけど、やつぱり、日本人が着た方が似合うなあ、と思つてしまいました。

ヘレンは、生がいで、「わたしのすむ世界」などいろいろの本を出版しています。どれも私は読んだ事がないので、一度、読んでみたいのです。

ヘレンは、自分の存在を小さく見ず、自分よりも苦勞をしている人々を助け、いくつもの講演を行つていたので、周りの人々にも、それに、ヘレンの講演を聞いた人も、みんな、ヘレンをそんけいし、しんらいしていたと思います。また、五十年間ヘレンに寄りそつて生きたサリバン先生も、とてもすばらしい人だと思えます。私も、ヘレン・ケラーや、サリバン先生と同じように、人々から信らいたれるような人になりたいです。そして、自分の夢を叶えて、世界中にいる、困っている人々を、助けてあげたいです。

- ◆ 文章の構成がよくまた自分の考えをしつかりまとめてあります。
- ◆ ヘレンだけでなくサリバン先生にも目を向け評価している点がよい。
- ◆ ヘレンケラーだけでなく、サリバン先生のすこさに気付いたところが素敵です。読みたい本が増えたことも

佳作